多様な担い手で支える公共交通のあり方を検討

公共ライドシェア事業

鹿児島県南さつま市

交通・移動手段の困難

高齢者 / 子ども / 若者 / 地域住民 / 障害者 / 生活困窮者 / 認知症の方 / その他

基礎情報		
	人口（R7.1月時点）	31,094人
	高齢化率（R7.1月時点）	41.7%
	要介護認定率（R7.1月時点）	19.4%
	取組の予算規模（年間）	約500万円

詳細は案内サイトから

【つわちゃんバス・つわちゃんタクシー】https://www.city.minamisatsuma.lg.jp/living/basjikokuhyo/tsuwachanbas/e029654.html

取組概要

- コミュニティバス型と乗合タクシー型の2種類の公共ライドシェアを実施している。
- コミュニティバス型のライドシェア（循環線）は定時定路線での運行で、市（総合政策課）が運転手を雇っている。
- 乗合タクシー型のライドシェア（長屋線）は週３回・事前予約制で、市の地域おこし協力隊として市にゆかりのあるバレーボールチーム「フラーゴラッド鹿児島」選手1名が運転手を担っている。

背景・きっかけ

- 民間事業者が運営する市の路線バスにおいて、2024年問題（労働時間の上限規制導入の影響）等により運転手の確保が困難となり、収益性の低い路線が廃止された。
- これを受け、市では公共交通の手段等を見直すことで利便性を確保する必要が生じた。
- そこで、一部の路線バスやコミュニティバスを廃止、減便し、乗合タクシー型への移行を行った。しかし、コミュニティバスや乗合タクシーは運転手が二種免許を持っている必要があり、運転手の確保が引き続き課題となった。
- このため、一種免許でも運転が可能な公共ライドシェアを10人乗りの車両およびタクシーで開始した。

取組の経緯

- コミュニティバス型のライドシェアは市が運転手（会計年度任用職員）をハローワーク経由で採用し、雇用した。乗合タクシー型は地域おこし協力隊の募集を検討したが、交通というテーマで募集しても運転手は恐らくなかなか集まらないと感じたため、可能性が高いと感じた「交通×スポーツ」をテーマに募集を出した。





ライドシェア事業を含む「つわちゃんバス・つわちゃんタクシー」案内サイト

公共ライドシェア事業
鹿児島県南さつま市

取組詳細

- **実施体制**
  - ✓ コミュニティバス型：市（総合政策課）が運転手（会計年度任用職員）をハローワーク経由で採用し、雇っている。採用した方は定年退職された方で、運転手としての職務経験はない方である。
  - ✓ 乗合タクシー型：市（総合政策課）が運転手として地域おこし協力隊のバレーボール選手を採用。安全管理（予約の受付、車両の準備、地域おこし協力隊のアルコールチェック等）はタクシー会社に委託しているほか、地域おこし協力隊の方が運転できない場合はタクシー会社から運転手を出していただいている
- **財源**
  - ✓ 本年度、コミュニティバス型のライドシェアについては国の交通空白地域解消のための補助金（500万円弱）を使用。

成果

- コミュニティバス型のライドシェアは昨年度のコミュニティバスの時より利用客数が増えており、定着してきたと考えている。乗合タクシー型のライドシェアは昨年度のコミュニティバスの時より一便あたりの利用客数がそれほど減っておらず、曜日・時間を決めて運行する中で運用できていることがわかった。

今後の展望

- 運転手の確保状況によるが、今後事業者側での継続が難しい場合は、より多くの路線を公共ライドシェアに切り替えていく可能性がある。
- 公助だけでは難しいため、住民等に講習を受けていただき、運転手としてご活躍いただきたい。ただし、運行管理者確保のため、事業者にご協力いただく必要もある。
- 自動運転バスも実証実験として実施中。最高速度と経費の課題がクリアできれば運用も検討している。

取組のポイント

- **住民主体の運用に向けた第一歩として実施**
- 地域状況に応じたライドシェア業態を実施している
- 「交通×スポーツ」や会計年度任用職員等の制度を用いた運転手の確保に取り組んでいる
- コミュニティバス型で用いられるハイエース車両には、手すりや踏み台を準備し、乗り込みにくさを改善している